

経済学研究科博士前期課程の「国際経済学」について

授業の目的	国際貿易論の初級レベル（夜時間帯に開講）・中級レベル（昼時間帯に開講）の内容を習得することを目的とする。
学習到達目標	国際貿易論における専門書や論文を読むための基礎知識を身につけることを目標とする。
授業内容	国際貿易と貿易政策の基礎理論を扱う。 1. リカード・モデル 比較優位, 多数財のケース 2. ヘクシャー＝オリーン・モデル リップチンスキー定理, ストルパー＝サムエルソン定理, 要素価格均等化定理, ヘクシャー＝オリーン定理 3. 新しい貿易理論 独占的競争と産業内貿易, 新々貿易理論 4. 貿易政策 輸入関税政策, 輸入割当政策, 輸出補助金政策, 地域貿易協定 5. 国際要素移動 資本の国際移動, 労働の国際移動

現在の研究課題

- 自由貿易協定 (FTA) や関税同盟 (CU) といった**地域貿易協定**が, 国際貿易や経済厚生にどのような影響を与えるか, 世界全体での貿易自由化への積み石 (*building block*) になるか, それとも躓き石 (*stumbling block*) になるかについて, 理論的に考察している。
- 垂直的な産業・貿易構造 (中間財も最終財も寡占市場のモデル) の下での**戦略的貿易政策**に関して理論的分析を行っている。

研究のための推薦図書

- [1] 伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店, 1985年.
- [2] 多和田眞・柳瀬明彦『国際貿易』名古屋大学出版会, 2018年.
- [3] Jagdish N. Bhagwati, Arvind Panagariya, and T. N. Srinivasan, *Lectures on International Trade*, 2nd ed., The MIT Press, 1998.